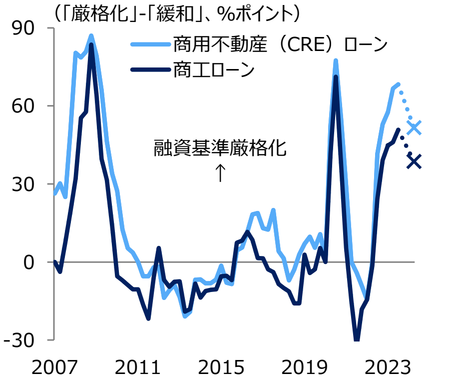
MRI 三菱総合研究所

米国

銀行融資担当者調査（2023年4-6月期）
融資厳格化が一段と進行、先行きは商業用不動産市況に警戒感

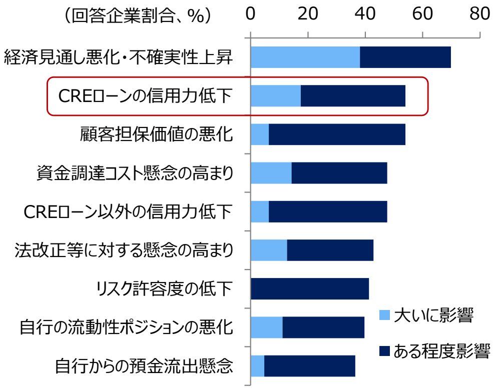
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 企業向け融資基準DI



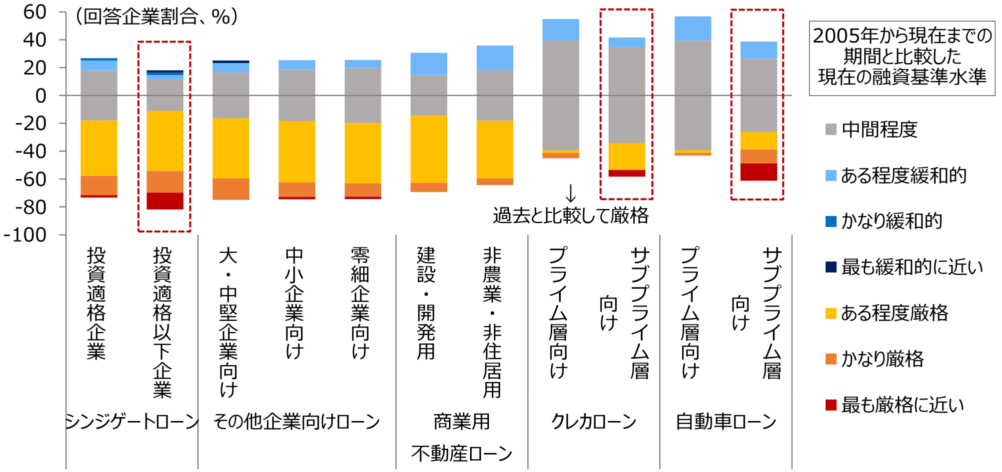
注：商工業ローンは大・中堅企業向け。商用不動産は13年第4四半期以降は非農地・非居住向け。×は23年後半の景気が想定通りに推移した場合に予想される水準。
出所：FRB "Senior Loan Officer Opinion Survey"

2 23年後半の融資厳格化理由



注：全回答行に占める、各項目の回答金融機関割合。複数回答。回答割合が高い項目を上から掲載。
出所： FRB "Senior Loan Officer Opinion Survey"

3 過去と比較した現在の融資基準水準



出所：FRB "Senior Loan Officer Opinion Survey"

評価ポイント

今回の結果

- 企業向け融資基準DIは、商工ローン（前回46→今回51%pt）や商用不動産（CRE）ローン（同67→同68%pt）等、厳格化が一層進んだ（図表1）。厳格化理由としては、「経済見通しが悪化・不確実」や「リスク許容度の低下」が引き続き多い。
- 23年後半については、融資厳格化が一服すると見込む金融機関が多い（図表1の×）。商工ローンについては、当該設問が始まった22年10-12月期調査以降初めて、「やや緩和する」と回答する機関も見られた。

基調判断と今後の流れ

- 米銀の融資基準は、4-6月期に一段と厳格化された。米国経済は堅調さを維持しているが、一段の利上げや不確実性の高まりが背景にある。
- 融資基準の厳格度を水準で見ると、企業向けローンや商業用不動産ローンでは過去と比較して厳格な水準にある。特に「投資適格以下企業」や「サブプライム層」などの信用力の低い企業・個人に対しては、融資を慎重化させている模様だ（図表3）。
- これを受けて、企業の設備投資も抑制されるだろう。過去の傾向を見ると、融資基準の厳格化は、2年程度のラグをもって貸出残高の圧縮につながっており、今後残高の減少が本格化する恐れがある。
- 先行きについては、一段の厳格化の動きは一服するものの、引き続き「厳格化」超過の状況が続くとみる。FRBによる利上げは最終局面を迎えているが、当面高金利が維持される見込みであり、米国経済の減速が本格化するためだ。
- 先行きのリスクは、CRE市況の悪化による銀行経営不安の再燃だ。リモートワークの定着や利上げによる需要減を受けて、CRE空室率の上昇や資産価値の下落が進んでいる。23年後半の融資厳格化理由を見ても、「CREローンの信用力低下」を挙げる機関は多い（図表2）。CREローンの貸し手は中堅・中小行に多く、銀行経営不安の再燃や破綻増加に繋がらないか警戒が必要だ。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.